

中学校第3学年 社会科(歴史的分野)学習指導案

中学校

実習生

指導教諭

- 1 日 時 令和3年6月11日(金) 第5時限
- 2 場 所 中学校 3年2組教室
- 3 対 象 中学3年 クラス(11名)
- 4 単 元 名 第5章 第4節「第二次世界大戦と戦時下の人びと」

5 単元目標

- (1) 第二次世界大戦前後の日本の政治、中国などアジア諸国との関係や欧米諸国の動きについて理解する。
- (2) 世界諸国の情勢や流れとともに戦時下の国民の生活にも注目し、戦争中の生活の変化をおさえ、国際協調と国際平和の重要性について気付くことができる。
- (3) 第二次世界大戦前・大戦中・戦後の日本と世界各国を大観し、それらの特徴を多面的・多角的に考察して、表現することができる。

6 単元について

(1) 教材観

本単元は、第二次世界大戦前から日本がポツダム宣言を受諾し、敗戦するまでの世界各国の動きや日本との関係性の変化について、枢軸国であるファシズム派と連合国である反ファシズム派の2つに分かれていることをおさえ、学びを深めさせる。様々な資料から第二次世界大戦についておさえ、国際協調や国際平和の重要性に気付くことができるように、「なぜ～なのか」という学習課題を設置し、課題追求や自分の考えを述べるための方策として、話し合いや多面的・多角的に考察を行うことができる環境をつくる。

(2) 生徒観

3年生は、落ち着きがあり集中力が続く生徒が多い印象である。興味・関心は概ねあり、高い傾向にある。自分の意見を考え、述べることができる。また、他者の意見を聞き、自分の意見とどこが違うのか、吟味することができる。歴史上の出来事を前後の流れを通して見ることができる。また、第二次世界大戦でポイントとなるファシズムについて、前回の単元で学習済みであり、そのため、大観する力があると言える。

(3) 指導観

本単元は、生徒の実態を踏まえつつ、次の3点に重点を置いた指導を行う。

- ① 話し合い活動や調べ学習に導く一斉授業を構成し、生徒が自ら知識を定着させようとする意欲を高める。

まずは、シンプルな授業で基礎・基本的な知識を定着させる。その時に「一斉授業の内容は、授業内での話し合い活動や調べ学習における自分の考えを組み立てる際に重要になる」ことを理解させ、自ら意欲的に知識を獲得しようとする。また、話し合いや調べ学習の際には、板書や教科書、資料等から根拠を見つけやすいようにしておく。

- ② 学習課題を追求していく中で、話し合いを実施して考えを深めさせる。

授業全般に生徒自身の価値判断を伴う話し合い活動を設け、繰り返し実践させていく中で、公正な判断力や多面的・多角的な思考力、豊かな表現力を身につけさせる。話し合いをする際には、生徒自身の考えを他者の多様な意見を聞き、より深めさせることができるようにする。

- ③ ふり返りの時間を設けて、自分の思考の深まりを確認し、基礎・基本的な定着を図る。

授業の最後に本時の課題である「学習課題」に対する自分の考えを書かせる。自分の思考の深まりを確認する。また、それをペアワークやクラス全体の発表を通して、生徒間で意見を共有し、より深化させる。

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 世界の諸国の動きや日本との関係性をおさえ、第二次世界大戦の流れを枢軸国と連合国に分けて理解できる。	○ 学習課題を解決するために必要な資料を選択し、それらから読み取り、自分の言葉で表現することができる。	○ 自分の考えを他者に伝え、また、他者の意見を聞き、多様な考えがあることを知ることができる。

8 単元の指導計画（全5時間）

時間	学習内容	学習課題	本時の目標
1 [本時]	第二次世界大戦のはじまり	なぜ第二次世界大戦が始まったのだろう	大戦前の世界各国の動き、関係性をドイツに注目しながらおさえる。どのような経緯で対戦が始まっていったのかを理解し、説明することができる。

2	アジア・太平洋地域の戦争	なぜ、日本とアメリカの関係が悪化していったのだろう	大戦中、日米関係が悪化していく背景をおさえる。また、日本は優勢だったのにも関わらず、徐々に後退していく過程について理解し、説明することができる。
3	占領地と植民地の動き	なぜ日本は、占領地で皇民化政策を進めたのだろうか	日本の戦争の目的が、「大東亜共栄圏」をつくることであることをおさえ、それらの政策が民衆にどのような影響を与えたのか理解し、説明することができる。
4	戦時下の民衆生活	戦争が人びとの生活にどのような影響を与えていたのだろうか。	戦争が日本国内の人びとの生活にも大きな影響を与えたことをおさえる。どのような影響や制度が人びとを苦しめていたのか、また、生活が苦しいのにも関わらず、政府への反抗が起こらなかったのか考え、説明することができる。
5	第二次世界大戦の終結	なぜ「原子爆弾」が日本に落とされ、これまでにない大きな被害をもたらしたのだろうか。	日本が戦争をやめるまでの過程をおさえる。なぜアメリカが「原子爆弾」を使用し、これまでにない大きな被害となったのか考え、説明することができる。

9 本時の展開

1 限目 第二次世界大戦のはじまり (教科書 p. 234～235)

(1) 本時の目標

- 第二次世界大戦前の世界各国の動きや関係性を理解する。
- 枢軸国 (ファシズム) と連合国 (反ファシズム) で対立し、ドイツのポーランド進撃から戦争が始まったことを理解する。
- 枢軸国と連合国の対立における第二次世界大戦の流れを大観し、教科書や様々な資料から読み取り、多面的・多角的に考える。それらを自分の言葉で表現し、説明することができる。
- 学習課題に対する答えをまとめることができる。 → 詳細は本時の展開に記載

(2) 本時の展開 (50分)

展開	学習内容・学習活動 [主な問い]	活用資料 [予想される子どもの反応]	指導上の留意点 [評価]
導入	<p>[復習]</p> <p>○隣同士で話し合う。</p> <p>その後、全体で意見を共有し、内容をおさえる。</p> <p>●世界恐慌の影響</p>	<p>[予想される生徒の考え]</p> <p><u>世界恐慌</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカのニューヨークで株価が急に下落したことから始まった。 ・多くの国で不景気になる。 ・ソ連は唯一影響を受けなかった。 ・アメリカ…ニューディール政策 ・イギリス・フランス…ブロック経済 ・日本…農家の生活苦しくなる。 <p>→米向けの生糸が売れなかった</p>	<p>○復習させる。</p> <p>今回の授業でポイントとなる部分を確認させる。世界恐慌により、世界各国で不景気となり、生活が苦しくなったことやその時期にファシズムの考え方が出てきたことをおさえさせる。</p> <p>*全体で確認していく際には、資料を書画カメラで写しながら説明し、思い出させる。</p>

5分	<p>●ファシズムって何？</p> <p>○今日の授業の学習課題を確認する。</p>	<p>ため</p> <p>・ 政党政治への批判が高まる。 → 民衆の生活を改善するための 政策を不十分に進めていなか ったため</p> <p><u>ファシズム</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国民の自由を制限する。 ・ 軍備を拡張して対外侵略を行おうとする こと。 ・ ドイツ…ナチス (ヒトラー) ・ イタリア…ファシスト党 	<p>○今日の学習課題を把握させる。</p>
	<p>【学習課題】なぜ第二次世界大戦が始まったのだろう。</p>		
<p>○学習課題に対する予想を立てる。</p>	<p>[予想される生徒の考え]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次世界大戦もそうだったように、ド イツが何か起こしたのでは？ ・ ファシズムと列強諸国の対立がより深ま ったのでは？ ・ 日中戦争も関係してそう 	<p>○学習するテーマを明確化する。</p> <p>○学習課題に対して予想を立てさせる。</p> <p>*直観的に予想を個人で立て、記述したワ ークシートをもとに隣同士で意見交流比 較思考を行い、新たな気づきへと促す。</p>	

<p>展開 10分</p>	<p>○資料をもとに確かめていく。 1. 適切な資料選択 学習課題を解決するために、必要な資料を考え、選択していく。</p>	<p>・国連を脱退したことも関係している？</p> <p>●予想を確かめていくためには、どんなことが分かる資料が必要なのだろう？ [予想される生徒の意見]</p> <p>・第二次世界大戦が始まるきっかけが分かる資料 →資料①ドイツのポーランド侵攻 資料②独ソ不可侵条約</p> <p>・世界諸国の動きや関係性が分かる資料 ・世界が枢軸国（ファシズム）と連合国（反ファシズム）で分かっていたことが分かる資料 →資料③独ソ開戦 資料④大西洋憲章 資料⑤日独伊防共協定 資料⑥日独伊三国同盟</p>	<p>*間違っても問題ないこと、大丈夫であることを伝え、復習した内容をもとに予想を立たせる。</p> <p>○予想を確かめるために必要な資料を考えさせる。</p>
-------------------	------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------

25 分	<p>2. 選択した資料から、読み取れること、分かったことを書いていく。 選択した資料から、分かることをワークシートに記入していく。</p> <p>3. 隣同士で資料から読み取ったこと、分かったことを共有する。 隣やペアの生徒同士で、資料から読み取ったこと、分かったことを共有する。</p> <p>4. クラス全体で考えを共有し合う。</p>	<p>資料から分かること 【予想される生徒の考え】</p> <p>*資料①・資料②から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツがポーランドへ進撃したことをきっかけに第二次世界大戦が始まった。 ・独ソ不可侵条約によって、ドイツとソ連でポーランドを2分割しようとした。しかし、それらを他の国は知らなかった。 <p>*資料③・資料④・資料⑤・資料⑥から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシズム…ドイツ、イタリア、日本 → 枢軸国と呼ばれる ・反ファシズム…イギリス、アメリカ、フランス、<u>中国</u>、<u>ソ連</u> → 連合国と呼ばれる 	<p>○選択した資料から、読み取り分かることをワークシートに記入させる。</p> <p>*1つの資料から、または複数の資料から読み取っていき、記述させる。</p> <p>*中国に関して、日中戦争を行っている最中であることから、日本の敵であることに気づかせる。</p> <p>*資料⑥を用いて、ソ連は、ドイツが独ソ不可侵条約を破ってソ連に攻め入ったことから、ドイツの敵、つまり連合国の方に入ったことを説明する。</p> <p>○隣同士で資料から読み取ったこと、分かったことを共有させる。</p> <p>*自分以外の考え方を知り、そこで自分と他者の考えを比較することで新たな気づきへと促す。</p> <p>○発表した生徒の考えをホワイトボードに</p>
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>35分</p> <p>まとめ 40分</p>	<p>クラス全体で各資料から分かったことを共有する。 生徒から挙げた考えは板書しておく。</p> <p>○今日のポイントをおさえる。生徒が資料から読み取った考え(板書等)をもとに、教員が再度説明する。 この時、はじめに学習課題に対して立てていた予想と比較する。</p> <p>○ふり返りを行う。 学習課題に対する自分の考えを書く。 書いた後、隣同士で話し合い、全体で確認していく。</p>	<p>☆ポイント</p> <p>①ドイツがポーランドに侵攻したことがきっかけで対戦が始まった。</p> <p>②第二次世界大戦…枢軸国 vs 連合国</p> <p>③枢軸国(ファシズム)…日本・ドイツ・イタリア</p> <p>④連合国(反ファシズム)…アメリカ・イギリス・フランス・(ソ連・中国)</p>	<p>板書する。なるべく多様な考えを共有したいので、多くの生徒に発表させる。</p> <p>○今日のポイントをおさえつつ、今日の学習内容を説明する。 *その際、はじめに立てた学習課題に対する予想と資料から読み取って分かったことを比較しながら、ポイントを押さえていけるようにする。</p> <p>○ふり返りとして、学習課題に対する答えを考えさせ、ワークシートに書かせる。 *その際、先ほど説明したポイントをしっかりおさえて書くことができるように指導する。</p>
<p>【学習課題に対する答え】</p> <p>ドイツはチェコとオーストリアを併合した後、ポーランドにも侵攻した。その様子を見ていたイギリスとフランスは、ポーランドの支援を行っていたため、ドイツに対して宣戦布告をし、第二次世界大戦が始まった。この大戦は、ファシズムである日本・ドイツ・イタリアの枢軸国、反ファシズムであるアメリカ・イギリス・フランスを中心とする連合国の対立で行われた。</p>			

3年 組 番 名前 _____

1 学習課題(なぜ疑問)を書こう

2 学習課題に対する予想を立てよう

.....

3 資料から分かったことを書こう

資料番号() ○資料から分かったこと

資料番号() ○資料から分かったこと

資料番号() ○資料から分かったこと

4 まとめ 学習課題(なぜ疑問)の答えを書こう

.....

たしかめ資料

*資料①ドイツのポーランド侵攻

ドイツのポーランド侵攻 1939(昭和14)年9月1日



ポーランドに侵攻するドイツ軍。翌日の9月3日に、イギリスとフランスがドイツに宣戦布告し、第二次世界大戦が始まりました。

同情するが、血の雨を降らせ、冷酷になれ。新たな芽を出す抵抗はすぐにたたきのめせ、完全に鎮圧しろ。
(1939年のドイツ軍への宣戦)

ヒトラー p. 181

*資料②独ソ不可侵条約

1930年代の英・ソ・独の思惑は…?

イギリス ソ連の共産主義が広がるのを、ドイツが防波堤になることを期待していました。ミュンヘン会談(1938)では、ドイツの要求を認めました。

ソ連 フランスムンヘンは反対の立場でした。しかし、ミュンヘン会談に除外された上、イギリス、フランスと条約を結ぶことができなかったため、英連への不信感がありました。アジアでは、露露の国境で日本軍と衝突し、危機感が高まっていました。

ドイツ 共産主義には反対の立場でした。イギリスやフランスと戦争になった場合、ソ連がイギリスやフランス側で参戦して、背後から攻めてくることは避けたいと考えていました。

1939(昭和14)年8月 独ソ不可侵条約



独ソ不可侵条約

- ①ドイツとソ連は、お互いに侵略や攻撃をしない。
- ②ドイツがソ連が、第三国と戦争になったとき、もう一方の国は、第三国を援助しない。

以下は付属の秘密条約

- ③エストニア、ラトビアなどはソ連、リトアニアはドイツの勢力範囲とする(のちの条約でリトアニアもソ連の勢力下に)。
- ④ポーランドは(ドイツとソ連で)分割する。

ポーランドはどうなってしまうのかな?

対立して条約を結んだため、各国は大きな衝撃を受けました。日本の軍閥一部は1941年8月の独ソ不可侵条約を「独ソ協定」と見なし、反発しました。

→p. 181

*資料③独ソ開戦

ドイツとソ連の開戦 1941(昭和16)年6月



モスクワに向かうドイツ軍。ドイツとソ連はバルカン半島をめぐり対立しました。さらにドイツは、イギリスの西側にソ連がいると考え、独ソ不可侵条約を破り、ソ連に侵攻しました。

この戦いは、ファシスト軍による隷属化と、その脅威に反抗して自由のために戦う諸国民の統一戦線となるであろう。
(1941年7月3日のラジオ演説)

スターリン p. 167

*大西洋憲章

大西洋憲章 1941(昭和16)年8月

アメリカはどのようにしているのかしら?

- ①いかなる領土の拡大も求めない。
- ②国民が望まない領土の変更はしない。
- ③国民は、国の政治体制を選択する権利をもつ。
- ④貿易や原料の均等を開放に努める。
- ⑤労働条件と社会保障の改善のため、国家間の協力体制をつくる。
- ⑥生命を全うできる平和を確立する。
- ⑦自由に航行ができるようにする。
- ⑧安全保障制度の確立まで、好戦的な国々の武装解除をめざす。

アメリカのフランクリン・ルーズベルト大統領は1941年8月14日、イギリスのチャーチル首相と共同して大西洋憲章を発表しました。翌1942年、ソ連など26か国が賛同し、連合国が形成されました。この大西洋憲章は、戦後の国際秩序の礎となりました。→p. 204

たしかめ資料 no. 2

*資料⑤日独伊防共協定

1937年11月に、日本・ドイツ・イタリアの3国がローマで調印した。共産主義に対抗することを目的とする協定。1936年に日本とドイツが結んだ日独防共協定にイタリアが参加して成立した。付属の秘密協定として、ソ連を仮想敵国とした。

*資料⑥日独伊三国同盟

A 日独伊三国同盟
1940(昭和15)年

①日独伊三国同盟をえがいた漫画(1941年1月「アサヒグラフ」)
1940(昭和15)年9月に結んだこの軍事同盟により、アメリカとの関係が悪化しました。

